

入 試 年度	2026 年度	入試時期	Ⅱ期入学試験	実施日	2026 年 2 月 24 日
課程	博士前期課程	研究科	文学研究科	専攻・ コース	臨床人間学専攻臨 床心理学専修
入 試 方式	一般入学試験		試験科目	英 語	

「解答」または「解答例」及び「出題の意図」

M 臨床 28-1【Ⅰ】

【解答例】

変化のステップは何からやってくるか？

変化のプロセスのクライアント側の要因は、大抵の場合、次のような問いとの関連で議論されてきた：セラピストは、厳密に言うならば、クライアントの内の何に応答するべきなのだろうか？「感情(the feeling)」に、というのがよくある答えであるが、この用語は混乱を招きかねない。

「感情」に応答するというのは方向としては正しいのだが、厳密にはセラピストが応答するのは「感情」ではない。私たちはクライアントの内にある、そこから変化のステップがやってくるような何か、それに応答するのである。だからこう問うことにしよう。クライアントの内の、そこから変化のステップがやってくるようなそれとは何か？それは厳密には「感情」ではない、少なくとも私たちになじみがあるような、それが何なのかははっきり同定できるようなものとしての感情ではない。変化のステップはむしろ、「エッジ(edge)」から、クライアントが語ったり知ったりしていること以上のものを含んだ「感覚(sense)」からやってくる。

私たちは現在では、このような不明瞭なエッジを「フェルトセンス (felt sense)」と呼んでいる。これもまた感じられるものであるのだから、それが明瞭で同定可能な通常の感情とどのように異なるのかを明確にしておかなければならない。

【出題の意図】

カウンセリングにおけるクライアントの変化に関するジェンドリンの基本的な考えについての知識を踏まえて英文を読解する能力があるか調べる。

M 臨床 28-2【Ⅱ】

【解答例（採点時の観点）】

下記の点について記載できているか、記載の正確さによって採点を行う。

(1) 自撮りをソーシャルメディアに載せることや載せられた写真を見ることはどのような目的で行われていると著者は述べているか。

- ・写真を他者と共有するために掲載している。

- ・自身の顔や身体を載せるために使用している。
- ・少女，女性に人気がある。
- ・他者と自分との比較のために見る人がいる。
- ・自身と他者の身体を比較していることがみられる。
- ・一部の女子にとっては，見習うべきロールモデルを見つけたりすることもある。

(2) 自撮りをソーシャルメディアに載せることについて著者が述べている懸念をまとめなさい。

- ・掲載した写真に寄せられるコメントが否定的なものである場合，載せた人が落ち込んだり，不安を感じたりすることがある。
- ・写真を見ることで安心感を持つ人もいれば，身体に対しての自信を失う人もいる。
- ・他者と比較することにより自信を失うことにつながる。
- ・細い身体イメージが理想的であると受け取られる場合，特に自信のない人には，理想の身体にならなければいけないというメッセージとして受け取られる場合がある。

【出題の意図】

「自撮り」という現代的な人の行動に関して説明をした文章である。基本的な英文を読み取る学力を有しているかを問う問題である。さらに，比較的近年に人が行うようになった行動の背景について，英文から読み取ることができるかを確認するための問題である。

M臨 28-3【Ⅲ】 1～3

【解答例】

〔設問1〕

自閉症ではない人は，自閉症を抱える人の精神状態を把握することや表情を識別することが難しく，さらに，自閉症を抱える人の自己中心性を過大評価して，自閉症の人との社会的交流への意欲を喪失する。

〔設問2〕

「二重共感問題」が示唆することのひとつは，自閉症を抱える人の「社会的障害」が，自閉症と自閉症でない人とのミスマッチによって生じる場合，集団内相互作用においてそれらの障害が消失する可能性があるということである。

〔設問3〕

二重共感理論に基づくと，自閉症を抱える人同士の相互作用はうまく進み，肯定的なものになると筆者は考えている。

採点時の観点：自閉症を抱える方々のコミュニケーションに関して，従来の一般論や見

解に引っ張られずに、著者の考えを適格に理解できるかどうかを重要な評価ポイントとした。

【出題の意図】

問題Ⅲは研究論文の抜粋であり、英語の研究論文の構造を適切に捉え、正確に日本語に訳す能力を評価するために出題した。なお、研究論文は、自閉症を抱える方々のコミュニケーションに関する重要かつ新たな示唆が得られる学術論文である。

合否判定の方法及び基準

入学試験は文学研究科のアドミSSIONポリシーに基づき、これを満たす学生を募集することを目的に実施しています。

合否判定については、本研究科のアドミSSIONポリシーを満たすことを、総合的な視点により合否を判断しております。